

段ボールコンポストとは

段ボールコンポストとは、ダンボール箱を利用した生ごみ処理機のことです。

段ボールに入れた基材（腐葉土など）に住んでいる微生物の力で生ごみを分解し、堆肥を作ります。

段ボールは通気性が良いため、基材の水分の調整や、微生物に必要な空気（酸素）を通すことに適しています。

段ボールコンポストの作り方

○用意するもの

- ・段ボール箱（みかん箱など厚めの箱で底を金具で止めたもののほうが良い）
- ・新聞紙2日分（底敷き用）
- ・基材（腐葉土と米ぬかを重さで5対3の割合で）
- ・バスタオルなどの布（通気性を保ちつつ、虫の侵入を防ぐため）
- ・ひもかゴム（虫の侵入を防ぐため、布をとめる）
- ・ブロックやビール瓶ケース、すのこなどの土台（段ボール箱の底の風通しを良くするため）
- ・ゴム手袋

○基材について

腐葉土は微生物を多く含み、米ぬかは微生物の栄養となり発酵が促進される。

○手順

1. 段ボール容器を組み立てる

段ボール箱をひっくり返して底面を粘着テープでとめる。箱の底に新聞紙を2日分程度敷く。側面の穴などを粘着テープで塞ぐ。

2. 基材を入れる

腐葉土と米ぬかを重さで5対3の割合で入れ、よくかき混ぜる。

3. 置き場所を決める

容器はブロックなどの足の上に置いて通気性を確保する。雨があたらず、風通しの良い場所に置く。段ボール箱にバスタオルなどの古布をかけて、虫の侵入を防ぐため紐（ゴム）でとめる。

4. 生ごみを入れる

水切りした生ごみを段ボール箱の中に深めに入れて軽くかき混ぜる。1日の投入量は500グラム程度まで。大きい生ごみはできるだけ細かくして入れると良い。（大きいままだと分解に時間がかかるため）

5. お手入れ

生ごみを入れない日も1日1回は全体をかき混ぜ空気を入れる。

生ごみの分解が進むと基材の温度が上がる。基材の温度が上がってこないときは、コップ1杯程度の米ぬかを入れて様子を見る。

6. 生ごみ投入の終了時期と熟成

3か月くらいで塊が多くなってくる。量が増えてべたつきかき混ぜにくくなったら終了なので、生ごみの投入を止め、1~2週間は時々かき混ぜる。時々水を入れ、かき混ぜる。熱がなくなったら堆肥として使用できる。

庭や畑がある場合は、穴を掘り土と混ぜて1か月以上寝かせると黒っぽい堆肥ができる。

段ボール堆肥の使い方

段ボール堆肥1に対して、土4の割合で混ぜて使う。

※ ここで紹介した方法、材料は一例です。いろいろなやり方がありますので、やりやすい方法で挑戦してみたいはかがでしょうか。

